

株式会社 全国商店街支援センター

平成27年度 商人塾支援事業

(事業報告書概要版)

特定非営利活動法人近畿まちクリエイト(兵庫県神戸市)

参加商店街： エルナード水道筋、王子公園駅前商店会、水道筋ひだまり商店街  
水道筋6丁目商店街、灘センター商店街、灘中央市場

コーディネーター：久見瀬展也 (株)久見瀬 外部空間設計事務所代表取締役

## 隣接する商店街の連携による地域活性化の タウンマネジメントについて

これからの地域社会に求められる商店街の役割について

人・店・まちの魅力の発掘・編集・発信について

地域住民・来訪者・個店の交流イベントの仕組づくりについて



## カリキュラム

第1回

「商店街の社会的役割」講師：石原武政氏（流通科学大学商学部特別教授）

第2回

「地域コミュニティ&ソフト事業事例」講師：土蔵康司氏（京橋中央商店街振興組合副理事長）

第3回

「まちの魅力を発掘・発信～新開地まちづくりの事例から～」講師：西島陽子氏（まちPRオフィス代表）

第4回

「多彩な地域交流イベント事例～伊丹中心市街地～」講師：村上有紀子氏（特定非営利活動法人いたみタウンセンター理事長）

第5回

「京都三条会商店街活性化事例」講師：上田照雄氏（京都三条会商店街振興組合理事長）

第6回

【現地調査研修】「地域が求めるニーズを具現化するタウンマネジメントの仕組みづくり」講師：古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）、加戸慎太郎氏（㈱まちづくり松山代表取締役社長）

第7回

【意見交換会】・5回の講師による講演内容の復習・現地調査研修の報告と参加塾生の感想を発表・2グループに分かれて感想と意見交換会

第8回

【卒塾式】・㈱全国商店街支援センター代表取締役社長桑島俊彦氏の小講演・商人塾レポートの個別発表・卒塾式・コーディネーターの総括

## 想い

神戸市は兵庫県との随伴によって、にぎわいを創出する事業補助が他都市に比べて手厚く、集客イベントが盛んにおこなわれている。しかしそれは一過性の賑わい演出にすぎず、持続的な活性化に繋がっていないのが現状である。その背景に役員が高齢化しており、イベントを業者に丸投げせざるを得ない事情がある。

そこで、住民と商業者が連携しながら地域・商店街・店舗を元気にする新しいソフト事業を企画・運営できる次世代のリーダーを育成する必要性を感じ、今神戸市内で最も活発な事業を展開しており、継続的な取り組みが期待できる水道筋界限商店街を舞台にこの事業にチャレンジしたいと思いました。

この地域は神戸市内でも有数の商業集積地で6商店街4市場から構成されており、中心的存在であるエルナード水道筋は若手役員の熱心な集客イベント事業の実施により賑わっているが、周辺の商店街・市場は空き店舗が目立ち衰退している。そこで、地域全体として活性化に取り組む必要性を感じ、各商店街と市場の若手役員が一堂に会して学習と意見交換するのに商人塾が最も有効であると判断した。

## ねらい

### 1. 必要なカリキュラムと適任講師の選定

初めに今求められている商店街の役割と、国の支援施策について学んだあと、水道筋界限商店街の課題を抽出・想定し、その解決に取り組んでいる先進商店街の強力なリーダーやプレイヤーから体験談を聞いて、解決の方向性について意見交換できるようにした。

地域課題として、①停滞しているポイントカード事業の再構築、②地域・商店街・個店が元気になるイベントのしくみづくり、③エリアマネジメント組織づくりを想定した。

### 2. 講師を媒介とした塾生間のコミュニケーション

隣接する4商店街、1市場の役員と若手商業者が参加しており、講師の話を経由して共通課題について意見交換ができるように運営し、座学終了後には近くの居酒屋に移動し、講師を交えて飲み会形式で本音で意見交換ができるようにした。

### 3. 目標達成にインパクトのある先進商店街を調査研修

少し立地環境が違うが敢えて高松丸亀町商店街と松山市中央商店街を現地視察地として選考し、しっかりと将来ビジョンを掲げて、目標実現事業プログラムを立案し、収益事業を着々と推進しているマネジメント組織について学び、今後の事業推進に役立てるようにした。

### 4. その他

神戸市、神戸市商店街連合会、神戸市小売市場連合会にオブザーバーとして参加していたが、水道筋界限商店街の現状と取り組みを知ってもらうようにした。

## コーディネーターから



### 1. 研修の重点ポイント

阪急王子公園駅前から東へ伸びる、神戸で有数の元気で活気ある商店街「水道筋界限」で実施される商人塾とあって、今般は6商店街・市場の役員から若手有志まで幅広い塾生が参加しており、以下について留意した。

①それぞれが連携して定期的に運営会議等を実施しながら、すでに数多くのイベント等を企画・実施しており、広報に関しても様々な手法を試行錯誤しながら取り組んでいることから、できるだけ既存活動の参考や見直し改善に役立つような類似事例を紹介してもらえ

カリキュラム構成にし、実際にすぐ次の活動に応用できることに留意した。その為に他地域からの各講師による座学においても、毎回できるだけ質疑応答時間をとり、具体的に疑問点を解決したり、詳細を塾生同志で情報共有できること。

②全5回の座学終了後、視察研修としてのカリキュラムは、逆に未経験で未知数である、「振興組合による運営」から法人化して「まちづくり会社による経営」にシフトしている先進的取組事例の構成とすることで、今までにない視点や先進事例の抱える課題を身をもって体験してもらうことで、塾生各位の今後の活動に中長期的視点を加えてもらう。

### 2. できたこと

全6箇所の商店街・市場においても、「個店の商業者」が集まり、「組合活動等をとおして運営」することで各種イベント等の諸々の活性化策を講じているが、そのためどおしても、日常に根差した施策が中心となる傾向にあった。

①「第三者的視点で他地域の類似事例を聞くことで、一步離れて冷静かつ客観的に評価したり、意見交換できる」ようになったかと想われる。

②またさらに近い将来の可能性として、法人化した「まちづくり会社による商店街経営」を身をもって視察研修したことで、少し日常や現状から離れて視野広く中長期的視点で商店街のイメージ像を捉え考える機会になったかと思受けられる。

### 3. できなかったこと

第7回目の意見交換会では、オブザーバー参加の行政関係者と塾生が合同で2グループに分かれてのワークショップ形式とした。ただ、実際にグループで円卓を囲んで意見交換する時間が30分程度しか取れず、塾生各位が纏める卒塾レポートへの骨子や方向付け等まではできず、参加者全員がいろいろな意見を出しきり、情報共有するところまでとなってしまったのが、少し残念で申し訳なく思うところである。もともと塾生間では活発な意見交換ができることから、もう少し時間を長く設定して、塾生各位のレポート作業に繋がるようにしたいところであった。

## 今後に向けて

### 1. 変わったこと

①今まで毎月開催のえびす祭りを軸に多彩なイベントを若手役員が中心に手弁当で実施し、相当のにぎわい創出に貢献してきたことを自負していたが、他商店街の事例からイベントが個店の売上増に繋げる仕組みづくりの必要性和、高松丸亀町商店街と松山中央商店街の現地調査研修では商店街を経営する発想(収益事業の構築とそれを経営する組織づくり)に意識転換する必要性を抱くようになった。

②市場で営業する塾生が商店街と連携した回遊性イベントを開催する必要性を学び、役員会に提案して前向きに検討することとなった。

③今回参加した若手商業者の中から商店街活動に参加したい意思表示があった。

### 2. 今後の展開

①卒塾生の中で既に商店街活動に実績のある役員と、今回の商人塾に積極的に参加して商店街活動に強い関心を持った若手商業者で委員会を編成し、課題である収益事業の研究をしながら、その運営組織立ち上げを卒塾生代表の西井氏と連携しながらサポートしていく予定です。

②(株)全国商店街支援センターの事業メニューを活用して、個店の営業力強化事業をサポートしていきたい。既に卒塾生から繁盛店づくりを体験したいという希望が出ている。

③各商店街・市場の個別の課題解決及び今回の商人塾を通じて興味を持った取り組みたい事業等を、今回実施機関として担当した2人が、神戸市商店街・市場応援隊派遣事業を活用してサポートしていきます

## 卒塾生代表



5回に及ぶ座学で話題の商店街の活性化事例を商店街・サポート役連携団体それぞれの立場の実情を踏まえたお話を伺い、商店街運営や各種のイベントを成功させるコツを知ることが出来た。

また現地調査研修では商店街主導によるテナントミックスとタウンマネジメントについて学ぶことができ、地域内連携の必要性を感じた。

今回の商人塾をきっかけに普段交流の少ない地域内の他商店街や市場の方々と活発な意見交換ができ、地域の更なる活性化をめざして同じ方向に向けてスタートすることができたと考えています。